まちのわだい

町からロアッソ熊本へ100万円を出資

今年6月の町定例議会で、ロアッソ熊本への出資金を盛り込んだ本年度一般会計補正予算が提案、可決されたのを受け、6月24日、ロアッソ熊本の運営会社であるアスリートクラブ熊本の岡（おか）　英生（ひでお）社長が町長室を訪れ、住永町長に謝意を伝えました。

ロアッソ熊本に出資を決めた自治体は、熊本県、熊本市に続いて3番目で、同社長は「益城町にはグラウンドの使用をはじめ、応援自販機の設置などでも協力、バックアップしていただき大変お世話になっています。今後も熊本に元気を与えられるようなチーム作りを目指し、地域活性化のためにも頑張ります。町民の皆さんのさらなる応援をお願いします」と述べました。

これに対し、町長は「ロアッソ熊本の選手の皆さんには、町で開催しているさまざまなイベントにも参加していただいています。今後も町民に元気を与えていただきたいし、町民挙げてロアッソを応援し続けてまいります」と答えました。

また、役場職員有志がロアッソ熊本の運営の一部に役立ててほしいと募金を募り、集まったカンパ十二万八千五百円も併せて同社長に手渡されました。

今年、念願のJ2に昇格したロアッソ熊本。県民にサッカーを通して元気と勇気、夢を与えているロアッソ熊本。このチームを私たち町民一人ひとりが温かい気持ちで応援し続けたいものです。

住永町長と堅い握手を交わす岡社長（左）

ボランティア米の田植えに挑戦

広安愛児園の子どもたち

6月21日、町民グラウンド近くの田んぼで、ボランティア米の田植えが行われました。これは、2002年から井関農機労働組合熊本支部（串山繁寿（くしやましげとし）支部長）が毎年行っているもので、今年は、広安愛児園の子どもたち22人が招かれ、初めての田植えに挑戦しました。

この日はあいにくの雨でしたが、子どもたちはまず担当者から田植えの指導を受けました。それから全員がはだしになり、苗を両手に持ち、田んぼに入り、恐る恐る植えていきました。しばらくすると要領を得て、上手にたくさんの苗を植える子どももいました。

このお米は、秋になり収穫が終わると同園で開催される「もみじ祭り」に使われるほか、町内の福祉施設に寄付されるそうです。

一本一本ていねいに植えていきました

長年の講師活動に感謝状

楠（くすのき）　信子（のぶこ）さん（安永1町内）

昭和58年から25年間、公民館講座の水墨画講師としてご指導いただいた楠　信子さんが、今年3月末に勇退されました。これに伴い、7月1日、岡部教育長から長年のご尽力とご活躍に対し、感謝状が贈られました。

楠さんが指導された講座の受講生は、25年間で200人以上にも上り、その素晴らしい水墨画は、昭和59年6月号から60年5月号までの「広報ましき」の表紙を飾りました。

「今年90歳を迎えましたが、気持ちはまだまだ若いので、今後は県水墨画顧問、また、日本美術協会員として数多くの展覧会に出展したい」と語られました。

長い間、お疲れさまでした。

岡部教育長から感謝状を受ける楠さん